

路面電車シリーズ第2弾 中部地方の路面電車

～富山地鉄、富山ライトレール、万葉線、福井鉄道、豊橋鉄道～

1 はじめに

本年も旅行・鉄道研究部の出展にご来場いただき有難うございます。昨年の都電に引き続き路面電車について書きました。読んでいただけたらうれしいです。

今年はひとつの会社につき会社紹介→路線紹介→車両紹介の順に説明します。会社の順番は富山地方鉄道→富山ライトレール→万葉線→福井鉄道→豊橋鉄道の順です。最後に新型車両について書きました。

2-1 富山地鉄について

※富山地方鉄道は「富山地鉄」とします。

富山地方鉄道は富山県に 100.5 km の路線を持つ私鉄である。鉄道線では本線、立山線、不二越・上滝線(直通して走っているためこの文章では一つにする)があり、電鉄富山から立山や宇奈月温泉を結んでいる。

軌道線は本線、支線、安野屋線、呉羽線、富山都心線の5つがあり、本線は、不二越・上滝線の南富山(本線は南富山駅前)から富山駅前、支線は、富山駅前から丸の内、安野屋線は丸の内から安野屋、呉羽線は安野屋から大学前、富山都心線は丸の内から西町を結んでいる。1913年に富山電気軌道が一部路線を開業させたのがルーツ。その後は路線拡大を続け、富山市内を縦横に走っていたが、モータリゼーションの波に押されて縮小した。そして、2009年には環状線が運転を始め、注目を浴びた。

軌道線は全部で3系統あり、1系統が南富山駅前～富山駅前、2系統が南富山駅前～大学前、3系統が富山都心線経由の環状線である。

2-2 路線紹介

2 系統(南富山駅前～大学前)

南富山駅前を出ると左に曲がり桜橋市電通りに出て、300 mほどで大町電停に着く。堀川小泉、小泉町、西中野、広貫堂前と停車する。広貫堂前には「富山の薬売り」で有名な薬の広貫堂がある。広貫堂前を出ると上本町、繁華街で

～富山地方鉄道～



南富山駅前の車庫



富山駅前電停



奥が新富山大橋



単線時代の大学前電停



富山城とセントラム

ある西町に止まると環状線と合流し、中町、荒町、桜橋、電気ビル前、地鉄ビル前と停車する。地鉄ビル前を出ると左へ曲がり、富山駅前へ到着する。富山駅前には地鉄の電鉄富山駅が近く、JR富山駅は少し離れている。1系統は富山駅前止まりである。2系統の電車は富山駅前を出ると左へ曲がり、新富町、県庁前と停車する。以前、1系統は県庁前まで運行していた。県庁前を出ると富山城址公園が左に見えてくる。丸の内で環状線と分岐し、右へ曲がると、諏訪川原、安野屋と止まる。安野屋～新富山間には新富山大橋があり、新富山大橋開通までは安野屋を出ると単線になり昭和11年完成の旧富山大橋を渡ったが、現在は複線の新富山大橋を渡って新富山に着く。以前は新富山の先に交換設備があったが複線化に伴い、廃止された。新富山を出て左に富山大学が見えると、終点大学前である。

3系統(富山駅前～(循環)～富山駅前)

3系統は富山都心線と呼ばれ、丸の内→荒町の一方通行である。丸の内を出ると左へ曲がり、左手に富山城が見え、それから右に曲がると国際会議場前に着く。国際会議場前を出ると大手モール前に着き、左へ曲がり、グランドプラザ前に着く。グランドプラザ前を出ると本線の線路が見えてきて、左へ曲がるともうすぐ中町だ。

2-3車両紹介(鉄道線も)

～軌道線の車両たち～

デ7000形

1957年から1965年にかけて日本車輛で22両が作られた。デザインは都電の8000形(2012年停車場を参照)と似ている。現在7015号車を除く7012～7023が連番で残っているが、一部車両は塗装がはげ、留置場所が変わっていないので休車状態である。以前は緑とクリーム色のツートンカラーだったが、デ8000形の登場によりクリームをベースに赤と緑のラインが入った新塗装に塗り替えられていった。現在は7018号車のみ旧塗装で残っている。1984年から冷房改造をされた。屋根の上にある広告が目を引きられるが、最近撤去されつつある。

デ8000形

1993年に日本車輛で製造され、デ7000形以来、約30年ぶ



7000形旧塗装



屋根上の広告が目を引く7000形



8000形 8001号車



8000形100周年記念塗装



雪をかぶったセントラム



セントラム(白) 地鉄ビル前に

りの新車となった。都電の 8500 形をモデルに作られたともいわれているシングルアームパンタや VVVF インバータ制御など当時最新鋭の技術が盛り込まれた。5 両製造され、デ 8000 形の塗装が軌道線の標準的な塗装になっている。今年の 7 月頃から富山軌道線開業 100 周年を記念して 8004 号車が旧塗装に似せた装飾をしていた。

T100 形

2010 年にアルナ車両で、3 連接 1 編成で作られた。これからも 7000 形の置き換えで導入される予定である。豊橋鉄道の T1000 形をモデルにしているが、前面はオリジナルで、「リトルダンサー」シリーズ(※)のタイプ Ua である。愛称は「セントラム」で、富山都心線、ライトレールへの直通は考慮されていない。旧富山大橋がこの車両の重さに耐えられないため、1 系統のみの運行だったが、新富山大橋に架け替えられたため、2 系統への運用が可能になった。2013 年 4 月にもう一本増備された。

※リトルダンサーシリーズ…アルナ車両が製造する低床車のブランド名。アルナ車両と企業が技術提携をし、車両を作る。リトルダンサーシリーズ第一弾は鹿児島市電 1000 形(ユートラム)で、客室部分の 100% 低床化を国産車両では初めて達成した。現在では全国 10 形式がリトルダンサーシリーズである。

デ 9000 形

2009 年 12 月 23 日の富山都心線開業時に環状線用(回送時に 1 系統の運用もあり)として新潟トランス(元新潟鐵工所)で作られた。ライトレールがカラフルなのに対し、環状線は無彩色の白、黒、灰の 3 色、3 編成が作られた。富山市が車両保有をし、管理を地鉄が行っている。愛称はセントラムで、富山ライトレールへの直通も考慮されている。

～鉄道線の車両たち～

モハ 10020 形・クハ 173 形

1961 年にアルペンルート開発に伴い日本車輛で製造され、登場した特急用高性能電車。車体は 18 メートル級で、名鉄 5000 系(パノラマカー 廃車)や長野電鉄 2000 系(廃車 現在小布施駅で展示)と共通点の多い 2 扉転換クロスシート車。14720 形の製造をはさんで増備され、1969 年には 220 形が抜かれ、2 両編成となった。現在では増備車 2 連×2 本と、



セントラム(シルバー)



10020 形・



14720・170 形



14761・14762 形 旧塗装



14761・14762 形 新塗装



10031・10032 形

中間車用の 220 形を先頭車改造した 170 形 1 両、173 形 2 両が残る。日中の運用にはあまり入らない。

モハ 14720 形・クハ 170 形

10020 形の増備車で、1962 年にモハ 14721+222+ 14722 のように組み、日本車輛で製造された。1969 年には 10020 形と同様に 222 号車が改造され、172 号車となった。現在は冷房改造され、170 形と組み、2 両編成で走っている。現在も出番は減ったものの幅広く走っている。

モハ 14761 形・モハ 14762 形・クハ 175 形

会社創立 50 周年を記念して 1979 年から日本車輛で、14760 形 14 両と 175 形 1 両が製造された。地方の鉄道が 15 両も完全新製車を発注することは当時とても注目を集め、大きな前面窓や当時の最新技術(冷房等)などが評価され、翌年の 1980 年にローレル賞(※)を受賞した。基本は 2 両編成で、平日の朝は 175 号車と組んで 3 両で走る。現在ではレッドアローを譲り受けた後も特急運用に入り、全路線で 10030 形と共に主力車両として走っている。

※ローレル賞…鉄道友の会がその年の優れたデザイン、運用、技術の車両に贈る賞。京急 800 形、小田急 9000 形、京王 5000 形、東急 8500 形、200 系新幹線なども受賞している。

モハ 10030 形・モハ 10031 形

冷房化率向上のため京阪 3000 形の車体を譲り受け、営団地下鉄 3000 系(別名マッコウクジラ)の台車などと組み合わせ、1991 年にデビューした。10033 編成は京阪 3000 形さよなら記念で京阪塗装に戻され、鳩のヘッドマークが復元された。16 両を譲り受け、10033 号車には今年の 8 月下旬より京阪から譲り受けたダブルデッカーを組み、3 両で走っているが、その他の車両は 2 両で組んでいる。現在も全線で走っている。

モハ 16011 形・モハ 16012 形・クハ 110 形

1995 年とその翌年に 16011+110+16012 の 3 連を 2 編成譲り受けた。車体は元西武 5000 系レッドアローで、台車などは JR485 系、運転台は京急旧 1000 形である。車内はほぼそのままリクライニングシートを装備しているが、トイレと車内販売準備室は撤去された。富山地鉄の看板特急の「うなづき号」、「アルペン号」などで運行し、2005 年に 2 連で



16011・16012・110 形



東急から来た新型車? 上市にて東急買うなんて地鉄らしくない



東急から来た新型車(その 2)
南海サザンとか京阪を期待していたのに…

稲荷町にて



富山駅前電停に停車する 7014 号車 *父が撮影(1990 年代?)



延伸予定地にセンターポールが設置され、準備万端みたい。

も運行可能な改造を受けた。16013 編成が昨年「ALPUS EXPRESS」に改造され3連で走っている。

元東急 8590 系(地铁での形式名は決まっています)

2013年7月頃に、副都心線開業に伴って大井町線へ来た9000系に置き換えられた東急大井町線8590系である。3両編成を2編成導入し、現在も稲荷町工場で改造を受けている。

3-1 富山ライトレールについて

1924年に富岩鉄道が貨物営業するため、岩瀬浜～富山口(廃止)を開業させたのがルーツ。その後、富山まで延伸し、旅客営業を始めた。その後戦争によって国鉄(富山港線)になり、2006年3月1日に赤字路線のJR富山港線が廃止になり、その約2ヵ月後に第三セクター路線として、4月29日に富山ライトレールは開通した。会社としては2009年4月21日に設立され、カラフルな車両が話題を呼んでいる。車両の愛称は港(ポート)×路面電車(トラム)=ポートルムとなった。富山駅北～岩瀬浜(6.5km)を結んでいる。

3-2 路線紹介

富山駅北電停は富山駅北口のすぐ目の前で、2本の電車が発着できるように2本線路があるが、日中は東側の線路を使い、毎時00、15、30、45分に電車が発車する。JR富山港線時代は2時間に1本だったことに比べれば大変便利になった。

さて、富山駅北を出ると、道路の左端によせられた併用軌道を走り、通りとぶつかりと右折し道路の真ん中へ出て、その後インテック本社前を発車すると軌道と道路が分けられるが、これは神通川の支流を渡るための橋である。橋を渡り、しばらく走ると左へ曲がり、奥田中学校前に到着する。ここから富山港線の廃線後の専用軌道を走る。奥田中学校前を出ると、下奥井、粟島、越中中島、城川原に停車する。城川原には車庫があり、日中3本の車両が止まっている。富山港線時代も車庫が1985年3月14日まであった。駅のベンチの後ろの背景に昔の車庫の写真が貼られている。定期券販売所にはスタンプがあり、自由に押すことができる。城川原を出ると犬島新町、フィーダーバスとの乗換え

～ライトレール～



富山駅北電停



富山駅北を出てすぐの通り奥が富山駅



岩瀬浜電停



岩瀬浜



黄、青、緑…とあるが、0601号車は赤で乗れると恋がかなうという噂が...

ができる蓮町、大広田、東岩瀬と停車する。東岩瀬には国鉄時代の駅舎と旧ホームがある。東岩瀬の次は富山港線時代臨時の駅だった競輪場前で、競輪場前を出ると終点岩瀬浜だ。岩瀬浜は蓮町と同じくフィーダーバスの乗り換えができる。バスは水橋漁港前と岩瀬浜を結んでいる。北へ歩くと日本海が見え、砂浜が広がる。また、江戸時代に北前船の商人たちが家を構えた町並みは岩瀬浜が最寄りである。

3-3 車両紹介

TLR0600形

富山ライトレールは全車 0600 形で、2006 年 4 月 29 日の富山ライトレール開業時に 7 本が導入された。車両ごとに色が異なり、赤、オレンジ、黄、イエローグリーン、緑、青、紫がある。カラフルな車両は路面電車ファンの中で話題を呼んでいる。車体は岡山電気軌道 9200 形と万葉線の MLRV1000 形をモデルに新潟トランスで作られ、2007 年にブルーリボン賞を受賞した。この車両の類似車は環状線のデ 9000 形である。

4-1 万葉線について

1948 年に富山地方鉄道が高岡駅前～米島口と伏木線(米島口～伏木 廃止)を開業させたのが始まり。その後は六渡寺まで延伸され、射水線(新富山～富山新港 廃止)と直通運転が始まり好評だったが、富山新港の整備により、射水線との直通運転が中止となった。その後も縮小が続き、2001 年に第 3 セクター方式の株式会社万葉線が誕生した。沿線が大伴家持のゆかりの地ということで、万葉集にちなみ万葉線という愛称がつき、真っ赤な低床車両の「アイトラム」が導入され、話題を呼んだ。加越能鉄道時代にたくさんの借金を抱えてきたが、万葉線へ移り、アイトラムが導入されてからは乗客が徐々に増え、借金も市の援助があり、少しずつ返されている。

4-2 沿線紹介

高岡駅前～六渡寺間が軌道線の高岡軌道線で、その先から終点の越ノ潟までが鉄道線の新湊港線である。土日休日の車内アナウンスは沿線の射水市出身、立川志の輔さんの録音音声流れる。高岡駅前を出るとすぐ左へ曲がり、「すえひろ一ど」の中心を走っていく。600メートルほど走

～万葉線～



高岡駅前電停 今後は駅舎近くまで移設される予定



すえひろ一どを走る 1003 号車



米島口車庫*父が撮影



米島口電停を走る 7062 号車*父が撮影 2006 年頃



如意の渡しと建設中の橋 *父が撮影

ると末広町電停に停車し右へ曲がる。繁華街であり、オフィス街の片原町、坂下町、本丸会館前と停車する。広小路を出ると複線になり、志貴野中学校前、市民病院前、江尻、旭ヶ丘、荻布、新能町、米島口と停車する。ここまで来ると人通りと車の数が少なくなってくる。米島口から高岡軌道線は右へ曲がって専用軌道へ入るが、かつてはこのまま直進し、JR氷見線の伏木駅近くの伏木港まで行く「伏木線」が延びていた。米島口には車庫があり、乗務員交代も行われる。車庫には元富山地方鉄道富山軌道線の5010形や現役車両が止まっている。営業所ではハンカチやネクタイピン、缶バッジ、ペーパークラフトなどを販売している。米島口を出ると専用軌道へ入り、カーブしながらJR氷見線を越えるために坂を上る。国道と併走し、JR氷見線を越え、工場を横目に国道と別れ、坂を下ると能町口に着く。能町口を出ると再度、併用軌道へ出て、狭い道路の真ん中を走り、新吉久、吉久と停車する。この2つの駅は線が書かれただけの電停で、降りるときは車に注意するよう志の輔師匠に言われる。専用軌道へ入ると、橋の建設でなくなった「如意の渡し」の接続駅だった中伏木、六渡寺と停車、列車交換後に出発し、坂を上り庄川鉄橋を渡る。横幅が狭い鉄橋なのでスリルを感じる。渡り終わると庄川口、射水市新湊庁舎前、新町口、中新湊と停車する。中新湊は島式の交換可能ホームなので、乗降扉は左側を開け、万葉線は中新湊では右側通行となる。次の東新湊は万葉集ゆかりの奈呉の浦の最寄り駅である。海王丸電停は「海王丸パーク」の名にちなんだ。次の越ノ瀧電停の目の前に県営の無料船つき場があり、富山新港の対岸へ行くと14系統富山駅行きのバスが出ている。

4-2 車両紹介

デ7070形

デ7000形の増備車で、1967年から導入された。製造会社は日本車輛。デ7060形までであった進行方向後ろから二つ目と三つ目の間にあった半端な小窓が無い。最近7071号車と7073号車が冷房化された。7072号車は初代アニマル電車として2009年まで走ったが、アイトラムに置き換えられ、現在は冷房付の7073号車が走っている。沿線にある平米小学



子供に人気のドラえもん電車



ドラえもん電車の車内



初代アニマル電車の現状 塗装がはげている・・・



7072号車の車内



射水市新湊庁舎前に到着する7071号車*父が撮影

校の 1994 年当時小学校 6 年生だった西田晴津子さん(単純に計算すると現 31 歳…)の図案が採用された。(ちなみに私も西田ですが関係ありません。) 現在、7072 を除いた、7071~7076 までの 5 本が残る。

MLRV1000 形

2003 年に登場した超低床車である。製造会社は新潟トランスで、デザインは工業デザイナーの佐藤康三氏。2004 年に 2 編成、2007 年に 1 編成、2008 年に 1 編成、2009 年に 2 編成という形で増備された。2004 年にグッドデザイン賞を受賞し、2004 年 1 月号の鉄道ファンの表紙を飾った。岡山電気軌道 9200 型をモデルに設計され、富山ライトレール 0600 型、熊本市交通局 0800 形のモデルにもなった。車体のデザインのキーワードは「情熱」、「元気」だという。高岡の伝統工芸である螺鈿細工のシンボルが車体前面で輝く。2013 年 8 月末までアイトラムを使い、ドラえもん電車を運行していた。これは高岡市出身の藤子・F 不二雄. さんが書いた「ドラえもん」の空き地のモデルが高岡にあったということにちなみに一年間の期間限定で走った。

思い出の車両たち

デ 5010 形

富山地方鉄道の射水・笹津線専用として 1950 年から日立で製造された。両線の廃止により乗り入れ先の加越能鉄道へ移籍し、営業車・除雪車として今まで 60 年余り活躍してきたが、新型除雪車 6000 形の導入により、2011 年引退した。現在も車庫の奥に止まっている。

デ 7000 形

1961 年に、富山地方鉄道デ 7000 形をモデルに日本車輛で作られた。性能は基本的に地铁の 7000 形と変わらないが、半端な窓を残し、扉を両側へよせたことである。7060 形とともにアイトラムに置き換えられ、廃車になった。

デ 7060 形

1965 年に日本車輛で作られた。地铁の射水線乗り入れ用に作られたため当初は連結器を装備した。現在、7062 号車が 7052 号車とともに JR 貨物伏木駅に保存されている。7052 号車は加越能時代の橙と白の 2 色になった。



越ノ潟電停に停車する 1006 号車
奥が富山新港で、港ができる前は線路が奥へ続いていた。



庄川鉄橋を渡る 7071 号車



機械扱いになった 5022 号車

～福井鉄道～

※低質な写真が多いですが、ご了承ください。



モ 770 形 771+772



モ 880 形 888+889

5-1 福井鉄道について

※ 福井鉄道は「福鉄」とします。

田原町・福井駅前と越前武生を結ぶ路線であり、JR 北陸本線が併走しているため、正直、JR に客を取られている気がする。田原町ではえちぜん鉄道三国芦原線と接続しており、線路がつながっている。福井駅前には JR 福井駅から少し離れており、駅へは商店街を抜けていく。越前武生では JR 武生駅と乗り換え可能である。越前武生～赤十字前と木田四ツ辻の間が鉄道線で残りが軌道線である。1921 年に福武電気鉄道が現在の越前武生～神明を開業させたのがルーツ。その後も路線延伸と新駅開業を続けたが、戦後になるとやはりモータリゼーションの波に押されて縮小が始まり、現在のようになった。その後は 300 形や 600・610 形が投入された。最近では名鉄の 600V 線からの転入車によりホームが全電停低床化され、旧型の大型車が無くなっていった。現在、営業に入っている旧型車は 200 形と 610 形で、600 形は貸し切りのみとなっている。路面電車では現在、日本で唯一急行運転を行っており、ラッシュ時に運行される。ただし途中で普通を抜くことは無い。

5-2 路線紹介

越前武生を出るとカーブを曲がり、北府に着く。北府には車庫が隣接されており、600 形やデキ 1 形が休んでいる。北府を出ると田園風景の中を走り、2010 年に新設されたスポーツ公園に着く。それから家久、右にそれ川を渡り、サンドーム西、西鯖江に着く。西鯖江には福井鉄道の歴史を紹介したミニ資料館がある。次は西山公園、水落、神明、鳥羽中、三十八社。そして、清明と共に 2011 年に開業した泰澄の里に停車する。駅名の由来は近くに泰澄寺があるからである。泰澄の里を出ると、浅水、ハーモニーホールと停車する。駅の待合室は、音符のフラットを横にしたような形になっている。ハーモニーホールを出ると、新設された清明、江端、ベル前(平和堂や飲食店などが入った大型ショッピングモールのベルが駅近くにあるためこの駅名になった。)、花堂から複線区間に入り、赤十字前で併用軌道区間に入り、木田四ツ辻、公園口、幸橋を渡ると市役所前に着く。ここで日中は全列車スイッチバックをして福井駅



モ 770 形の車内
貫通路の形がユニークだ



モ 800 形 803 号車
導入したもの、あまり運用に入らない



モハ 200 形 201 編成



急行塗装のモハ 200 形 202 編成



モハ 200 形新塗装 203 編成

前へ行く。市役所前を出ると、単線になり、福井駅前に着く。再び市役所前へ戻り、田原町を目指し出発すると、仁愛女子高校、左へ曲がり、終点の田原町に着く。線路はえちぜん鉄道とつながっており、今後直通運転が予定されている。

5-3 車両紹介

モハ200形

1960年に急行用として日本車輛で作られた。車体は2連接で、1960年に2両、62年に1両が製造された。車内はセミクロスシートで、乗降扉の下にはステップがあり乗降時にステップが出てくる。デビュー以来看板列車として走ってきたが、名鉄の低床車を譲り受けてからは日中の運行にはあまり就かず、ラッシュ時の福鉄名物の急行で主に運行されている。

モハ600形

旧型車を置き換えるために名古屋市交通局から1997年と翌年に1両編成が2本導入された。600形は1965年に製造され、元名城線の車両で黄電と呼ばれて親しまれた。名城線は第3軌条方式だが、福鉄はパンタグラフ集電なので集電方法を変更する必要があり、名鉄岐阜工場で、改造された。名鉄の低床車が入って以降、602号車は貸し切り専用に改造され、601号車は休車中である。

モハ610形

600形の増備車両で、こちらも元名城線である。製造は1965年で、改造は岐阜工場である。デビューは1999年。こちらは2両固定編成が1本製造された。

モ880形

名鉄美濃町線の新岐阜乗り入れ増備用に2連接10本が二本車輛で製造された。モ770、800形と同時に2006年、名鉄に譲渡された。名鉄でのデビューは1980年で、鉄道ファンの表紙を飾った。車内は座席のクッションがひとり、ひとり分けられているロングシートである。1981年にローレル賞を受賞した。

モ770形

こちらも名鉄で、岐阜市内・揖斐線の直通急行用として日本車輛で1978年に作られた。外見はほぼモ880形と同じだ



200形の運転台



200形のステップ



市役所前電停



越前武生駅
最近、きれいに改装した



ホームかさ下げの名残
丸いコンクリートの高さが昔の
ホームの高さ

が、車内は普通のロングシートである。

モ 800 形

モ 770、モ 880 形と同じ 2006 年に譲渡された元名鉄。名鉄美濃町線の新岐阜乗り入れ用に日本車輛で 2000 年に製造された部分低床車であり、2001 年福鉄に福井駅前のトランジットモール社会実験で貸し出された実績がある。片側 3 扉のうち中扉が低床部分である。2001 年にローレル賞を受賞した。現在 802・803 号車が譲渡され、運行している。

F1000 形

～新型車両「ぴっく・あっぷ！」参照～

6-1 豊橋鉄道について

豊橋鉄道は新豊橋駅を中心に、鉄道線の渥美線は三河田原、市内線は赤岩口、運動公園前と路線がある。渥美線には元東急の通称「ダイヤモンドカット」でおなじみの 7200 形が走っている。きれいになった新豊橋駅の 2 階にグッズ売り場があり、下敷きやチョコQを売っている。1924 年に駅前～札木と新川～柳生橋を豊橋電気軌道が開業させた。その後も延伸をし、後に若干の縮小をした。1982 年には岩田運動公園が完成したため、競輪場前～運動公園前が開業、1998 年に駅前電停を豊橋駅寄りに 150m 延ばし、便利になった。

6-2 路線紹介

駅前電停を出ると左へ曲がり、大通りへ出る。4 車線もある車の町でよく生き残れたものだ。センターポールのすっきりとした町を走ると駅前大通電停に着く。この電停は 2005 年に新設された最も新しい電停である。駅前大通を出ると新川、左へ曲がり、国道 1 号線に入ると、札木、右へ曲がり、白い大きな豊橋公会堂が見えると市役所前。豊橋公園が最寄りの豊橋公園前、センターポール区間も終わり、道幅が狭くなると東八町、前畑、東田坂上、東田、競輪場前と停車する。競輪場前にはラッシュ時に働いた車両を留置させる引込み線があり、日中は大体 2 両止まっている。ここまでは複線でここからは単線になるが、あと 2 駅なので交換設備は無い。井原からは運動公園と赤岩口の 2 系統に別れる。運動公園へは井原を出ると日本一きつい半径 11 m の通称「井原の急カーブ」がある。600 メートルで運動公



北府の車庫で休むデキ
後ろに止まっているのは休車中の
の 600 形

～豊橋鉄道～



旧塗装の 3203 号車



モ 800 形 801 号車



2001 年ローレル賞受賞



側面にはこんなステッカーが

園前に着く。この路線は 1982 年に新設された路線で、当時は 600m ながら注目を浴びた。さて、赤岩口行きへ乗るとこちらもすぐに赤岩口につく。赤岩口には車庫があり、3100 形や元名鉄の車両たちが休んでいる。

6-3 車両紹介

モ 3100 形

1943 年に新潟鐵工所で作られた元名古屋市電 1400 形である。1971 年に 9 両を譲り受けたが、2006 年に元名鉄 780 形がデビューして、3202 号車 1 両をイベント用として残すのみとなった。

モ 3200 形

1955 年に日本車輛で製造された元名鉄美濃町線モ 580 形である。1976 年と 1981 年に 2 回に分けて 3 両が譲渡された。現在も全 3 両すべてが現役だが、日中はあまり運用につかない。3203 号はリバイバルカラーに戻された。

モ 3500 形

1977 年にアルナ工機で車体更新された東京都電 7000 形である。1992 年に 7009 号車(モ 3501)と 7028 号車(モ 3502)、1999 年に 7017 号車(モ 3503)と 7021 号車(モ 3504)を譲り受けた。荒川線は高床ホームで、豊橋鉄道は低床ホームなので、低床化の工事がされていることが大きな特徴だ。

モ 780 形

1997 年から 1998 年にかけて日本車両で作られた元名鉄岐阜市内・揖斐線の車両である。名鉄時代は連結器がつき、朝のラッシュ時は 3 連で運転していた。軌道線の岐阜市内線から鉄道線の揖斐線へ直通運転を行っていたため、乗降時に軌道線用と鉄道線用の 2 種類のステップが降りてきたが、鉄道線用のステップは豊橋鉄道入線時に撤去された。現在は 7 両全車両が移籍し、活躍しているが、全車広告車である。

モ 800 形

福井鉄道のモ 800 形と同形式。5 月頃まで「パト電」として運行していた。T1000 形「ほつトラム」が導入され、木曜日中心に走る。井原の半径 11 メートルの急カーブを曲がれないため、駅前～赤岩口間でのみの運行である。現在、801 号車が走っている。



名鉄特有のステップ



モ 800 形車内



T1000 形



モ 780 形 783 号車



モ 3500 形

※写真が切れていてすみません。

※モ 3100 形の写真は用意できませんでした。すみません。

T1000形

2008年にアルナ車両の「リトルダンサー」シリーズUタイプとして、3連接の車両が作られた。豊鉄では名鉄や名古屋市電などの中古車両を購入していたので、約80年ぶりの新型車となった。愛称は「ほつtram」。翌年の2009年にローレル賞を受賞したため、軌道線の二分の一の車両がローレル賞を受賞することになる。この車両も井原の急カーブを曲がれないため、駅前～赤岩口間で運転している。

新型車両びっく・あつぷ! (ver. 2013)

～目次～

- 1、札幌市交通局 A1200形
- 2、富山地方鉄道 T100形
- 3、福井鉄道 F1000形
- 4、阪堺電気軌道 1001形
- 5、広島電鉄 1000形

■No. 1 札幌市電A1200形 (2013年4月頃導入)

札幌市電では約25年ぶりの完全新製車。現在は1編成が運行しているが、平成27年(2015年)の環状運転に向けて、2014年にあと2編成増やす予定である。製造会社はアルナ車両で、車体は3連接。運転台はツーハンドルで、運転席後ろには液晶式の案内表示機が設置されている。シートの座面は黒で、背もたれ部分は緑となっている。定員は71人と少なめになっている。(ベテラン運転士さんからは評判が悪い…)

■No. 2 富山地方鉄道T100形 (2013年4月頃導入)

この車両は2010年に製造されたT101号車の増備車。暖房の強化と帯を緑から赤へ変更した。

※2-3車両紹介のT100形のコーナー参照。

■No. 3 福井鉄道F1000形 (2013年3月頃導入)

福井鉄道では約80年ぶりの新型車両となった。愛称は「FUKURAM(ふくらむ)」で、福井鉄道の路線図をイメージした「F」のロゴが愛称と共にドア上車体側面に書いてある。製造会社は新潟トランスで、運転台は富山ライトレール

～新型車両～



A1200形 すすきの電停にて



A1200形の運転台



A1200形車内



T102号車 富山駅前電停にて



T101号車車内

の TLR0600 形に似ている。車体は 3 連接で、側面には 4 ツ扉がついている。シートは青で、やはり運転席後ろに液晶の案内表示機がついており、FUKURAM の写真や停車駅等を知らせてくれる。

■No. 4 阪堺電気軌道 1001 形 (2 月頃導入)

阪堺電車では約 20 年ぶりの完全新製車。車体は 3 連接で、アルナ車両で作られた。車両の愛称は「堺トラム」。カラーリングの愛称は「茶々」となっている。車体は堺ゆかりの「千利休」にちなんで「わび」、「さび」をイメージした緑色と白茶色となっている。車体は「リトルダンサー」シリーズのタイプ Ua で、前面は富山地方鉄道の T101 形と似ている。8 月下旬から我孫子道～浜寺駅前間で運行するが、25 年度内には大阪市内（我孫子道～天王寺駅前、恵美須町）方面への運転も実施され、さらに 1001 形は 2 編成追加投入される予定になっている。



T102 号車と 8000 形記念塗装車



F1000 形「FUKURAM」



F1000 形の運転台

■No. 5 広島電鉄 1000 形 (2013 年 1 月頃導入)

広島電鉄では 5000 形 (Green mover) や、5100 形 (Green mover max) のような 5 連接の車両が入れない市内線の路線に低床車を走らせる必要があった。そこで開発されたのが 1000 形。車体は 3 連接で、製造会社は 5100 形と同じ、近畿車輛・三菱重工業・東洋電機製造にて製造された。愛称は 1001 号車が「PICCOLO」、1002 号車は「PICCOLA」となっている。車体の色は復元された 100 形をベースにした特別色の「アニバーサリーレッド」で、100 周年記念車両となっている。車両は 5100 形をベースにしているが、ワンマン仕様なので降車ボタンや客室スペースの確認用モニターなどが追加で設置された。車内のシートは茶色地にもみじの柄がついたもので、シート配置は 5100 形とあまり変わらない。現在は 9 系統の白島～江波間や 8 系統 (横川駅～江波)、7 系統 (横川駅～広電前) などで走っている。今後も増備される予定である。



F1000 形の車内



車内案内モニター

NO PHOTO !

1001 形「堺トラム」

7 おわりに

2009年に富山市が環状線を新たに開業してから4年がたった今年、札幌市電が西4丁目～すすきの間をつなげて、環状運転化(2015年)すると発表した。計画自体は前から出ていたが、正式に決まったことはとてもうれしい。最終的には札幌駅前まで伸ばすようだが、これはまだ計画段階。富山市が路線を新たに開業したことで、路面電車を見直す市が増えたので、富山市には感謝する。これからも日本全国、路面電車を見直してほしい。

最後まで読んでいただきありがとうございました。来年も第3弾を書こうと思っていますので、どうぞよろしくお願います。(来年は関西、中国地方かな?)



1001号車「PICCOLO」



1002号車「PICCOLA」



復元された100形 101号車



原爆ドームと1000形

～参考文献～(多いですね...)

- 原口隆行、著 日本の路面電車I (JTBキャンブックス)
- 鉄道ファン 2012年12月号(通巻620号)
- 鉄道ファン 2013年5月号(通巻625号)
- 鉄道ファン 2013年6月号(通巻626号)
- 鉄道ダイヤ情報 2009年12月号(通巻330号)
- 鉄道ジャーナル 1999年11月号(通巻397号)
- 歴史でめぐる鉄道全路線(公営鉄道・私鉄) No.10 名古屋市交通局 (朝日新聞出版)
- 歴史でめぐる鉄道全路線(公営鉄道・私鉄) No.19 富山地方鉄道 (朝日新聞出版)
- 歴史でめぐる鉄道全路線(公営鉄道・私鉄) No.28 えちぜん鉄道 (朝日新聞出版)
- 万葉線物語 万葉線開業10周年記念誌 (万葉線株式会社)
- 男の隠れ家 ～路面電車で風町散歩～ 2012年7月号(通巻184号)
- 路面電車で広がる鉄の世界 チンチン電車と都市計画が分かる本 (秀和システム)
- 旅の手帖 MOOK 路面電車の走る町 (交通新聞社)
- ブルーリボン賞 ローレル賞の半世紀 (鉄道友の会篇 交通新聞社発行)